

IISORA 第11回シンポジウム 福島

被災後12年の被害実態、 暮らしと村人・村の将来を語る

主催：飯舘村放射能エコロジー研究会 (IISORA)

共催：NPO 法人エコロジー・アーキスケープ

2023年11月3日(金) 午後1時～5時半

11月4日午前 飯舘村内の現地見学

場所：飯舘村交流センターふれ愛館ホール

参加者：どなたでもお気軽にご参加いただけます。

参加費：無料

オンライン中継予定

協力団体：R-DAN、映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会、原子力市民委員会、原子力資料情報室、原発事故被害者相双の会、国際環境 NGO FoE Japan、市民エネルギー研究所、日本環境会議 (JEC)、日本大学生物資源科学部内ケ崎万蔵研究室、BIOCITY、ふえみん婦人民主クラブ、福島の子もたちとともに・湘南の会

お問い合わせ / IISORA 福島シンポジウム事務局 tel : 090-6601-6786 email : sympo2023@iitate-sora.net

IISORA URL : <http://iitate-sora.net/>

絵：糸長浩司 つち・みどり・そらへの夢

被災後12年の被害実態、暮らしと村人・村の将来を語る

原発事故災害から12年経過したが、未曾有の激甚災害は継続中ともいえる厳しい状況、先の見えない状況であることに変わりません。その中においても、人々は生き続けています。どこの場所でどう生きるか、家族や仲間と、そして仕事をどうするかを問いつづけながら、12年を生きてきています。農山村地域での長期的な放射能汚染の実態。そのような中での人間の健康、土・水・大気・植物・の健康についての科学的解明と予測、その研究成果を被災者とともに学び、将来に向けた対策、飯館村人、飯館村の大地の将来について考えていきたいと思ひます。

プログラム

挨拶 今中哲二 (IISORA)

総合司会 佐久間淳子 (IISORA)

1部 村人の部 13時05分～14時45分

菅野 哲 (村人) 二地域での農的暮らし

伊藤延由 (村人) 山菜・キノコを測って13年

細杉今朝代 (村人) 飯館村での農的生活

本田 徹 (村人、いたてクリニック医師) 飯館村民の健康と医療

横山秀人 (村人) いたてネットワーク8年間の活動とこれから

その他

資料提供 飯館村 「飯館村の現状と復興施策について」

休憩 14時45分～15時

2部 専門家の部 15時～16時20分

今中哲二 (IISORA) 飯館村の放射能汚染のこれまでとこれから

糸長浩司 (IISORA) 森林汚染と再生の途、汚染土壌再利用、バイオマス発電

鈴木 讓 (IISORA) 放射性物質が水に流れ込めば真っ先に影響を受けるのは水生生物

振津かつみ (IISORA) 事故による放射線被ばくと医療・健康保障

豊田直己 (IISORA) 12年間、村民を撮り続けて

3部 総合討議 16時20分～17時20分

司会 糸長浩司

登壇者 発表者全員

会場との討論

まとめ 菅井益郎 (IISORA)

終了後 飯館村きこり で懇親会

11月4日 午前 飯館村の現地見学

○飯館村交流センターふれ愛館

福島県相馬郡飯館村草野大師堂17

福島駅東口バス停10番福島交通 9:50発 → 飯館ふれ愛館前 11:00着

ふれ愛館前 18:30発 → 福島駅東口 19:47着